

CIRとともに行う姉妹都市交流、地域の国際化

～世界都市金沢を目指して～

石川県金沢市都市政策局文化交流部国際交流課

金沢市は、「語学指導等を行う外国青年招致事業」(JETプログラム)により、1990年(平成2年)に初めて国際交流員を採用して以来、これまで9か国30名の国際交流員を採用してきました。現在、アメリカ、フランス、ベルギー、韓国、中国の5か国からの国際交流員5名が、私たちとともに働いています。金沢市において、国際交流員はどのような役割を担い、活躍しているのか、ここでご紹介し、JETプログラムを‘おススメ’したいと思います。

主な業務内容

はじめに、大きく分けて3つある金沢市国際交流員の業務についてご紹介します。

まず一つ目として、通訳業務が挙げられます。姉妹都市をはじめ、海外から来訪者があった際の表敬訪問や視察での対応を行っています。金沢に詳しい職員として、また海外からの来訪者の視点で、分かりやすい表現に努めながら通訳しています。5か国語を提供できるため、来訪者の言語に合わせて幅広く対応することが可能です。また、日本語が話せない住民が市役所の窓口に来た際には、通訳として窓口に出向き、コミュニケーションが円滑に進むよう手助けをしています。

二つ目に、様々な翻訳業務があります。種々の観光情報等の多言語翻訳を行い、金沢市の海外からの誘客力を高めるほか、行政情報を多言語翻訳し、日本語が読めない住民にも行政が提供するサービスを理解してもらえるようにしています。地道な作業ですが、通訳と同様、言語や文化・習慣の異なる人たちにどのように情報を伝えるか、気を配りながら仕事を行っています。

三つ目としては、市民向け国際理解講座の実施があります。講座内容はクラフトや料理、映画を利用した文化紹介など、国際交流員はそれぞれの特長を生かして企画・運営に携わっています。また、講師として学校や市民団体に派遣され、講演や文化紹介を行うこともあります。このほか、国際化に対応した職員養成のため、職員向けの基礎及び専門語学講座の講師も務め、職員の異文化理解の促進、語学力の向上にも貢献しています。



市民向け語学講座

姉妹都市交流に果たす役割

現在金沢市は、アメリカのバッファロー市、ロシアのイルクーツク市、ブラジルのポルト・アレグレ市、ベルギーのアントワープ市、フランスのナンシー市、中国の蘇州市、韓国の全州市の海外7都市と姉妹都市提携を結んでいます。今年、蘇州市とは、姉妹都市提携30周年を迎え、その記念事業の一環として、JETプログラムを通じて、蘇州市外事弁公室(蘇州市の姉妹都市交流窓口)の職員を

国際交流員として採用しています。蘇州市外事弁公室からは、姉妹都市提携15周年目であった1996年（平成8年）度、20周年目であった2001年（平成13年）度、2002年（平成14年）度にも、同様に、職員1名を金沢市で1年間雇用しました。共に働いてくれた国際交流員OB・OGにあたる蘇州市職員は、帰国後も金沢市への理解が深い職員として両市の交流の発展に大きく貢献してくれています。現在、ベルギー国際交流員もアントワープ市の大学出身者です。こうした姉妹都市と関わりのある国際交流員がいてくれると、より姉妹都市の情報が収集しやすく、実りの多い事業を実施することができます。

また、金沢市には7つの姉妹都市を表現したコーナーが配置された姉妹都市公園があります。この公園は、市民のみなさんに姉妹都市に親しんでもらい、より活発な交流が広がっていくことを願い、整備されました。そこで、より多くの方に公園を訪れてもらい、姉妹都市交流を知ってもらうため、公園の各姉妹都市コーナーにおいて、それぞれの国際交流員が、姉妹都市や母国の紹介を行う講座を開講しました。一度に異なる5か国の人と交流ができ、様々な国や都市の話が聞けることから、参加者には好評を得ました。同時に、参加者はもちろんのこと、メディアをとおしても講座の様子が流され、姉妹都市交流をより多くの方に知ってもらうよい機会となりました。



姉妹都市公園での姉妹都市紹介

地域の国際化に果たす役割

○来訪者対応

金沢市は現在、2015年の北陸新幹線の開業を控えており、首都圏が身近になることによる交流人口の拡大が期待されています。このことを見据え、国際交流員は、日本人とは異なる海外観光客の視点から、市内文化施設の来訪者向けパンフレットや案内看板、地図などの作成において助言や翻訳を行っています。また、近年、金沢市ではMICEの開催が増えてきました。今年度は、世界の一流シェフが石川県に滞在し、郷土素材や器を利用して料理を創作する「Cook It Raw (クック・イット・ロー)」や、世界の学識者が集った「城下町金沢国際ワークショップ」などが開催されました。このような場においても、国際交流員は金沢の文化を理解する翻訳・通訳者として活躍しています。世界に開かれた都市づくりを目指す金沢市にとって、MICE誘致は今後も力を入れる取り組みのひとつであり、国際交流員の活躍の場はますます増えていくものと思っています。



文化施設多言語パンフレット
[英・中(簡体字/繁体字)・韓]

○生活情報提供

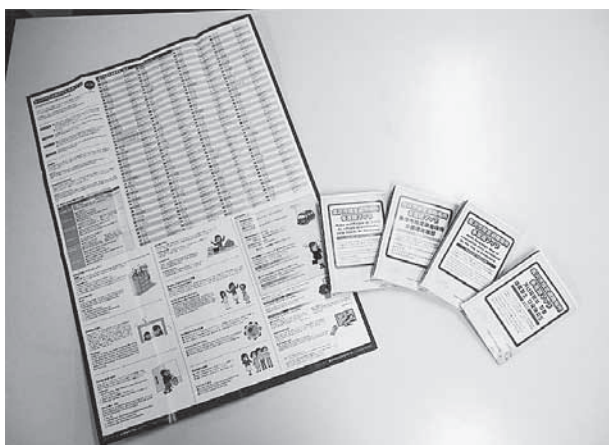
金沢市では、全人口約46万人の約1%が外国籍住民にあたります。日本語を理解できない住民が、様々な手続きや緊急時における関係機関連絡先など、必要な行政情報を入手できるようにするため、多言語生活ガイドを発行しています。地域においては、ゴミの出し方や集会所の駐車場の利用の仕方など、日本語が分からないことや文化の違いが

あることにより、住民同士の大きなトラブルに発展する可能性があります。そうした事態を防ぐために、ゴミステーションの看板や守るべきルール等、必要な言語に翻訳し、互いが気持ちよく住むための環境づくりへの支援も行っています。

○防災関係

昨年3月、甚大な被害を及ぼした東日本大震災が発生しました。こうした緊急災害時において、言語や文化が異なる住民が、日本人と同じ様に、いかに安全に避難し、安心して避難所生活を送ることができるかは、重要な課題です。このことから、金沢市では昨年度、国際交流員とともに、学校など拠点避難場所となっている施設の位置や避難所における活動についての解説をマップに掲載し、多言語化する事業を実施しています。さらに町会が独自に作成する防災マップにおいて、外国人住民としての目線でのアドバイスや翻訳支援も行いました。

また、今回の大地震では、震災の様子がメディアをとおして世界中に流された結果、日本＝危険というイメージが流布し、海外からの金沢市への観光客が、一時前年比62%まで激減しました。そこで、観光宿泊施設や交通手段などは平常に運営しており、従前どおり観光旅行ができることを海外の方に知ってもらえるよう、観光客向け「安心してお越し下さい」とのお知らせを翻訳するとともに、それぞれの国際交流員が母国語で金沢の安全な現状と魅力について語りかけるビデオを季節毎にアップし、YouTubeや市のホームページで発信を行いました。



金沢市指定避難場所多言語マップ

今後の課題や期待

現在、市政を取り巻く環境は、世界各都市との交流が本格化し、行政需要が高度化しています。今後、市の重要施策や行政課題の解決に向けても国際交流員の役割が増しており、主に3点でさらなる期待を寄せているところです。

その一つが、金沢の魅力の発信です。金沢市に愛着をもって赴任してくれ、深く魅力を理解してくれた国際交流員は、離任後も金沢への愛情を忘れません。国際交流員の何人かは帰国後も連絡を保ち、母国においてそれぞれのネットワークの中で金沢の魅力や情報を発信してくれています。また、昨年、金沢市の訪問団が韓国へ訪問した際には、国際交流員OGが通訳を買って出てくださいました。このように、金沢ファンとなり、離任後も金沢市の力となってくれることは非常に嬉しいことです。

また二つ目には、行政課題を解決するための情報の収集、関係部局への情報提供です。日常的に外国からの視察や訪問を受けている経験により、行政の課題を理解しており、外国都市における先進事例を情報収集し、担当部局へ提供することで各部局での施策に役立ててもらえることが考えられます。

さらに三つ目には、緊急時に対応するための情報の収集と外国人住民等への提供です。近年発生した新型インフルエンザのように不測の事態に際して、外国人の観点からも情報を選択して提供することや災害時における安否確認、情報の収集、そして避難所等での情報提供のあり方等を我々とともに検討してもらい、外国人住民や海外からの旅行者らに金沢において安全で安心した生活及び滞在をしてもらうための体制づくりに大きな役割を果たすことが期待できます。

国際交流員のもつ言語能力とその視点は、この課題への取り組みにおいて、欠かせないものといえるでしょう。金沢市は、これからも国際交流員の能力を活かしながら、共に、世界の中で小さくとも独特に輝く世界都市金沢を目指していきたいと考えています。